

大豆技術情報 第1号

令和3年5月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

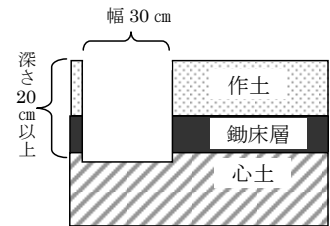
R2年産大豆は「莢先熟」と呼ばれる青立ち症状が多発しました。
莢先熟の発生を防止するため、以下の対策を徹底しましょう！

- 極端に早い播種を避け、できるかぎり6月上旬から播種を実施する。
 - 地力の高いほ場では、過剰な生育を防止するため、適正な播種量と施肥量を遵守する。
- 目標苗立数と初期生育を確保のために、適正な「排水対策」「土づくり」「播種作業」を行いましょ。**

1 排水対策の徹底

重要

- ・用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
- ・ほ場が乾いているときに、幅30cm、深さ20cm以上を目安に額縁排水溝を確実に設置し、深く掘り下げた排水口に連結しましょう。



《額縁排水溝イメージ図》

2 土づくり

- ・耕起前に必ずマグフミン(粒)を100kg/10a施用し、土壌pH 6.0～6.5を確保しましょう。
- ・地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。

《堆肥の施用量目安》

種類	10a 当たり施用量
牛ふん堆肥	1～2 t
発酵鶏ふん	100kg

3 病虫害防除

- ・種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず種子消毒を行ってください。

薬剤名	処理方法	対象病虫害等
クルーザーMAXX	種子1kg 当たり 8ml塗沫	紫斑病、茎疫病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト（忌避）
キヒゲンR-2 フロアブル (病虫害発生が少ないほ場)	種子1kg 当たり 20ml塗沫	紫斑病、タネバエ、ハト（忌避）

4 播種作業

- ・ほ場が乾いた条件で、耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業を1日で行い、砕土率60%以上を確保しましょう（右写真参照）。
- ・目標栽植本数を確保するよう事前に播種機の調整を行いましょ。
- ・作業速度は0.5m/秒程度の速さ（3連の播種機で30aほ場を70分で播種する速度）とし、急がず確実に種子を落としましょ。
- ・播種深度は3cmを目安としましょ。
- ・除草剤は、播種後、土が乾かないうちに散布しましょ。



《砕土率60%以上の土壌》

《播種時期別大豆播種量(1株2粒播き・条間80cm)》

品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量:注) (kg/10a)
えんれいの そら	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	5.4～6.2
	6月中旬	16,000～18,000	6.2～7.0
シュウレイ	5月26日～6月上旬	12,000～15,000	4.6～5.7
	6月中旬	15,000～18,000	5.7～6.9
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.1～4.9
	6月中旬	12,000～14,000	4.9～5.7

《基肥量の目安》

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)	
		単作	麦跡
BB基肥084 (10:18:24)	砂壤～壤土	30～40	50～60
	埴壤土	20～30	40～50

《除草剤》（下表のいずれか）

除草剤名	散布量 (kg/10a)
トリアザイト [®] 粒剤 2.5	4～6
ラキサ [®] 粒剤	4～8

注) 大粒の百粒重:「えんれいのそら」34.9g、「シュウレイ」34.4g、「オオツル」36.7g、苗立率90%の場合